慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ミュージックビジネスにおけるマネジメントコントロールに関する一考察
Sub Title	
Author	大隈由美(Ookuma, Yumi) 柴田典男
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1153号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1153

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1153

学生氏名　大隈　由美

主査　柴田　典男
副査　國領　二郎
山根　節

所属　柴田　典男　研究室

ミュージックビジネスにおける マネジメントコントロールに関する一考察

音楽業界は、現在2つの波を迎えている。「マルチメディアの進展」と「再販価格維持制度の撤廃への動き」である。これらを「レコード・メーカー」の立場で検討する。

「マルチメディアの進展」は、分野の枠を超え融合した商品をうみだす。音楽業界のビジネス形態そのものを変えていく。しかし、実際には「著作権」の問題が大きく立ちはだかり、具体的な形で見えていない。マルチメディアは様々な関係者・団体をまきこむが、各権利者団体の業務統一性がみられない。一元的な著作権集中管理団体の管理が望ましいが、「人格権」等の問題を克服しなければならない。音楽メーカーの力が及ばない問題をかかえ、権利の整備が待たれる。

「再販価格維持制度撤廃への動き」に対し、レコードメーカーは強固に反対の姿勢をとる。様々な理由が述べられているが、著者は現在のレコードメーカーが、アルバムであれば「約3000円」が大前提の構造となっているためであるという結論に至った。レコードは当たりはずれが大きく、数少ないヒット曲によって他の曲の赤字をカバーする構造である。それを可能とするのがこの値段なのである。一方、CDの原価構造は、制作費が音源の開発費で最も比重が大きく、材料費は非常に少ない。しかし制作費と価格には関連性がない。

「感性」が最も重要視されるレコードづくりでは、感性を具現化する「制作費」を重要視し、時に野放図となり、管理の必要性を感じた。経営を考えた場合、「感性」と「緊張感」のバランスをうまくとることが鍵であると考える。そして、このバランスをとりながら、数少なく不確実なヒット曲にたよるレコードメーカー体質からの脱却の具体的な提案を行う。